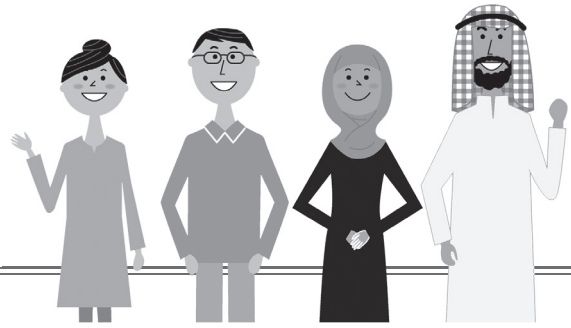


親日国



多くの人が砂漠と石油のイメージを持つ西アジア。
それだけではない、西アジアの多様な姿を紹介します。



図1 日本の外務省が定めた西アジアの範囲

範囲

西アジアは、アジアの西端に位置する地域であり、一般的にはアラビア半島とその周辺地域を指します。国連ではアフガニスタンとイランを南アジアに分類していますが、日本の外務省はアフガニスタンとイランを西アジアに含めています(図1)。西アジアの総面積は約480万平方キロメートルであり、人口の71.4%が都市部に居住しています。

気候

トルコは地中海性気候ですが、その他の大部分の国が乾燥気味の砂漠気候とステップ気候に分類されます。

アラビア半島のほぼ全域と、イラン、イラク、ヨルダン、イスラエル、シリアの南部にかけて広がるアラビア砂漠の広さは233万km²とされています。日本の面積が37万km²なので、日本全土を6倍しても、まだ余るくらい大きな砂漠です(図2)。

西アジアの

西アジアを読み解く



アラビア半島のクウェート、サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦、オマーン、イエメンには、「極端な乾燥・少雨」「砂漠地形」「高温による蒸発」「地形的条件の不足」という複合的な自然環境により、日本のように年中流れている河川は存在しません。西アジアの多くの地域

図2 アラビア砂漠

では水不足が問題となっており、人口の急速な増加により水の需要が増大する一方、土壌の塩化と汚染により水の供給が脅かされています。

宗教

西アジアにはメッカ（サウジアラビア）、メデイナ（サウジアラビア）、エルサレム（イスラエル）とイスラム教の三大聖地があるため、多くの国がイスラム教を信仰しています。イスラム教の中でも、能力や共同体の合意を重視するスンナ派、血統的正統性を重視するシーア派と別れています。スンナ派が大多数となっていますが、イラン・アゼルバイジャン・イラクはシーア派を信仰する人の方が多くなっています。イスラエルではユダヤ教が信仰されていますが、パレスチナという地域ではイスラム教が信仰されています。また、ジョージアやアルメニアでは正教系のキリスト教が信仰されており、宗教の多様性が見えます。